

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2010-82806

(P2010-82806A)

(43) 公開日 平成22年4月15日(2010.4.15)

(51) Int.Cl.

B 4 2 D 1/00 (2006.01)

F I

B 4 2 D 1/00

A

テーマコード (参考)

審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 12 頁)

(21) 出願番号 特願2008-250896 (P2008-250896)
 (22) 出願日 平成20年9月29日 (2008. 9. 29)

(71) 出願人 000002897
 大日本印刷株式会社
 東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号
 (74) 代理人 100084146
 弁理士 山崎 宏
 (74) 代理人 100081422
 弁理士 田中 光雄
 (74) 代理人 100079245
 弁理士 伊藤 晃
 (74) 代理人 100138874
 弁理士 大塚 雅晴
 (72) 発明者 森 正強
 大阪府大阪市西区南堀江1丁目17番28
 号 株式会社DNPメディアクリエイイト関
 西内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 動画を生じさせる特殊折丁、およびこれを備えた冊子

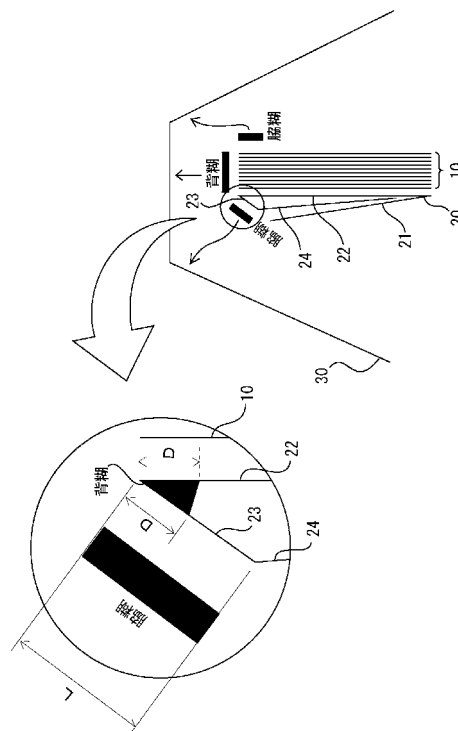
(57) 【要約】

【課題】動画を生じさせる冊子の大量生産を実現するとともに、下絵とフィルムゲージの十分な相対スライド量を確保する。

【解決手段】

特殊折丁20は、フィルムゲージ45を保持するフィルムゲージ保持区画21と、折丁10の上に重ねられるベース区画と、脇糊によって冊子の表紙内面に固定されるストローク付与区画と、下絵フラップとを、一列に連設して構成される。この特殊折丁20のストローク付与区画23が脇糊で表紙内面に固定されるので、表紙30を開閉する動作と連動して下絵フラップ24がフィルムゲージ45に対して相対的にスライドし、これにより動画が生じる。動画を生じさせる要素を特殊折丁として提供することで、大量生産が可能となる。また、アジロ綴じ製本を採用した場合には、脇糊領域に入り込む背糊の侵入量を抑えて、表紙開閉動作に伴う下絵フラップのストローク量を適正化することができる。

【選択図】 図8



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

折丁（１０）の上に重ねられ、背糊および脇糊で表紙（３０）に固定されて冊子（１５）を構成し、

複合画像（２６）で構成される下絵が表示された下絵フラップ（２４）と、当該下絵に対応するフィルムゲージ（４５）とを重ね、両者を相対的にスライド移動させることで、動画を生じさせる特殊折丁であって、

当該特殊折丁は、折罫を介して一列に連設された第１～第４区画で構成され、

第１区画（２１）は、フィルムゲージ（４５）を保持するフィルムゲージ保持区画（２１）を構成し、 10

第２区画（２２）は、折丁（１０）の上に重ねられるベース区画（２２）を構成し、

第３区画（２３）は、脇糊によって冊子の表紙（３０）内面に固定されるストローク付与区画（２３）を構成し、

第４区画（２４）は、下絵フラップ（２４）を構成し、

下絵フラップ（２４）がベース区画（２２）上に折り返されるとともに、当該下絵フラップ（２４）をスライド可能に挟み込むように、フィルムゲージ保持区画（２３）が折り返されてベース区画（２２）上に固定されており、

製本された冊子の表紙（３０）を開閉すると、表紙内面に固定されたストローク付与区画（２３）が共に移動し、これと連動して下絵フラップ（２４）がフィルムゲージ（４５）に対して相対的にスライドして、上記動画が生じることを特徴とする、特殊折丁。 20

【請求項 2】

上記下絵フラップ（２４）は、ストローク付与区画（２３）に連設される根元部（２４ a）においては、当該ストローク付与区画（２３）の全幅に渡って延在するとともに、根元部とは反対側の自由端部（２４ b）においては、上記全幅よりも短い寸法を有し、根元部（２４ a）と自由端部（２４ b）の両端同士を直線（２４ c）で結んだ台形形状を為すことを特徴とする、請求項 1 記載の特殊折丁。

【請求項 3】

上記ベース区画（２２）とストローク付与区画（２３）の境界に位置する折罫（b）には、アジロ綴じ用のミシン目（５０）が形成されていることを特徴とする、請求項 1 または 2 記載の特殊折丁。 30

【請求項 4】

請求項 3 記載の特殊折丁（２０）を折丁（１０）の上に重ねた上で、背糊および脇糊を用いて表紙（３０）に固定してアジロ綴じ製本された冊子であって、

特殊折丁（２０）のストローク付与区画（２３）が脇糊で表紙内面に固定されており、表紙（３０）を開閉する動作と連動して下絵フラップ（２４）がフィルムゲージ（４５）に対して相対的にスライドし、これにより上記動画が生じることを特徴とする、冊子。

【請求項 5】

上記表紙（３０）には、冊子を閉じたときでもフィルムゲージ（４５）を外部から視認することを許容する開口（３３）が形成されていることを特徴とする、請求項 4 記載の冊子。 40

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、背糊および脇糊で表紙に固定されて冊子を構成する特殊折丁に関する。本発明の特殊折丁は、複合画像で構成される下絵の上で、フィルムゲージをスライド移動させることで、絵が動いているかの如き視覚的效果を与える。

さらに本発明は、この特殊折丁を含めて製本された冊子に関する。この冊子は、例えば、雑誌、カタログ、パンフレット、書籍として使用することができる。 50

【背景技術】

【0002】

「下絵」と「フィルムゲージ」を利用して、パラパラ漫画とよく似た原理で、あたかも絵が動いているかのような視覚的效果を与える技術は、従来から知られている（例えば、特許文献1、2）。その原理を簡単に説明すると、次の通りである。

【0003】

画素が2つの場合：図1、図2

図1は、「複合画像で構成される下絵」の作成原理を示している。ここでは、複合画像は、2つの画素から構成される。まず、画素1、2をそれぞれ等間隔“ α ”で間引いて、「残像」と「欠け」が繰り返す中間画素を作成する。次に、中間画像1の「欠け」部分に、中間画像2の「残像」部分が一致するようにして、両者を組み合わせて複合画像を作成する。

10

【0004】

一方、図2に示したフィルムゲージは、透明の基材上に「黒塗りの細長い帯状領域」を等間隔で印刷したものであって、「帯状領域の幅」と「各帯状領域間の間隔」とが等しい（共に“ α ”）。

このフィルムゲージを複合画像上に重ね合わせて、両者を相対的にスライドさせると、図2に示したように、中間画素1の「残像」がフィルムゲージ上の各帯状領域間の透明領域にきたときに星形模様が視認される（A）。

一方、中間画素2の「残像」がフィルムゲージ上の各帯状領域間の透明領域にきたときに丸形模様が視認される（B）。

20

【0005】

以上の相対スライド動作を適度な速度で行うと、人間の目には、あたかも星形模様と丸形模様が動的に変化しているかのように視認される。

【0006】

画素が3つの場合：図3、図4

以上に説明した画素が2つの場合は、（i）画素を間引く際の「残像」と「欠け」の幅寸法を等しくし（“ α ”）、かつ、（ii）フィルムゲージ上の「帯状領域の幅」および「各帯状領域間の間隔」を共にこの“ α ”と等しくしている。

【0007】

画素が3つの場合は、図3、図4に示したように、（i）画素を間引く際に、「欠け」の幅寸法“ β ”を「残像」の幅寸法“ y ”の2倍とし、（ii）フィルムゲージ上における「帯状領域の幅」を「欠け」の幅寸法“ β ”に等しく、「各帯状領域間の間隔」を「残像」の幅寸法“ y ”に等しくする。

30

「欠け」の幅寸法“ β ”が「残像」の幅寸法“ y ”の2倍であるため、中間画素1の「欠け」部分に他の2つの中間画素2、3の「残像」を収めることができ、したがって、3つの画素からなる複合画像を作成することができる。

【0008】

そして、図4に示したように、中間画素1の「残像」がフィルムゲージ上の各帯状領域間の透明領域にきたときに星形模様が視認される（A）。中間画素2の「残像」がフィルムゲージ上の各帯状領域間の透明領域にきたときに丸形模様が視認される（B）。中間画素3の「残像」がフィルムゲージ上の各帯状領域間の透明領域にきたときに菱形模様が視認される（C）。

40

【0009】

同様の考え方で、画素が4つ、5つの場合にも、複合画像および対応するフィルムゲージを作成できる。

【0010】

以上に説明した例では、ストライプ状のフィルムゲージを使用しているが、格子状のフィルムゲージと、これと対応する下絵とを利用して、同様の視覚的效果を与える構成も知られている。

50

ストライプ状のフィルムゲージの場合には、視覚的效果を得るために「下絵」と「フィルムゲージ」を相対移動させる方向は、ストライプに直交する１方向に限られる。これに対して、格子状のフィルムゲージの場合には、タテ、ヨコ、ナナメのいずれの方向に相対移動させた場合であっても、視覚的效果を得ることができる。

【００１１】

【特許文献１】特表２００７－５２６５００号

【特許文献２】実用新案登録第３０９５２６５号

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【００１２】

上記視覚的效果によって得られる動画を利用して冊子を構成すれば販売促進効果を高めることが期待できるが、その反面、構造が複雑であるため大量生産が難しいという問題がある。

また、そのような冊子を製造しようとする場合、表紙を開閉する動作に連動させて、「下絵」と「フィルムゲージ」を相対スライドさせることとなるが、綴じ方（製本の仕方）を工夫しなければ相対スライド量が不十分となるため、満足な動画を生じさせることはできない。

【００１３】

したがって、本発明の第１の目的は、動画を生じさせる冊子について、大量生産に適した具体的な構造を提供することである。

また、第２の目的は、冊子として製本した場合に「下絵」と「フィルムゲージ」の十分な相対スライド量を確保することである。

【課題を解決するための手段】

【００１４】

本発明は、上記課題を有効に解決するために創案されたものであって、次の特徴を備えた特殊折丁を提供する。

本発明の特殊折丁は、特殊折丁は、複合画像で構成される下絵が表示された下絵フラップと、当該下絵に対応するフィルムゲージとを重ね、両者を相対的にスライド移動させることで、動画を生じさせる。この特殊折丁は、折罫を介して一列に連設された第１～第４区画で構成される。

第１区画は「フィルムゲージを保持するフィルムゲージ保持区画」を構成する。第２区画は「折丁の上に重ねられるベース区画」を構成する。第３区画は「脇糊によって冊子の表紙内面に固定されるストローク付与区画」を構成する。第４区画は下絵フラップを構成する。

下絵フラップがベース区画上に折り返されるとともに、当該下絵フラップをスライド可能に挟み込むように、フィルムゲージ保持区画が折り返されてベース区画上に固定されている。製本された冊子の表紙を開閉すると、表紙内面に固定されたストローク付与区画が共に移動し、これと連動して下絵フラップがフィルムゲージに対して相対的にスライドして、上記動画が生じる。

【００１５】

「下絵」は、例えば図１～４で説明したような「残像」と「欠け」で構成される複数の画素から作成される複合画像である。また、下絵に「対応するフィルムゲージ」とは、複合画像の「残像」および「欠け」に対応した「透明領域」および「不透明領域」を含み、相対スライドによって動画を生じさせるフィルムゲージを意味する。

また、フィルムゲージは、ストライプ状および格子状のいずれであってもよく、対応する下絵（複合画像）と相対スライドすることで動画を生じさせる。

【００１６】

特殊折丁はアジロ綴じによる製本に供することが好ましく、その場合には、ベース区画とストローク付与区画の境界に位置する折罫に、アジロ綴じ用のミシン目を形成する。

【００１７】

10

20

30

40

50

また本発明により、上記特殊折丁を用いてアジロ綴じ製本した冊子が提供される。その場合には、特殊折丁のストローク付与区画が脇糊で表紙内面に固定される。表紙を開閉する動作と連動して下絵フラップがフィルムゲージに対して相対的にスライドし、これにより上記動画が生じる。

【発明の効果】

【0018】

本発明では、冊子において動画を生じさせる要素を特殊折丁として提供しているので、大量生産が容易となる。すなわち、「冊子内の各ページを構成する通常の折丁の上に、当該特殊折丁を重ね、これを表紙に固定する」という通常の大量生産ラインにのせることが可能となる。

10

【0019】

特に、下絵フラップが、ストローク付与区画に連設される根元部においては、当該ストローク付与区画の全幅に渡って延在するとともに、根元部とは反対側の自由端部においては、上記全幅よりも短い寸法を有し、根元部と自由端部の両端同士を直線で結んだ台形形状を為す場合には、特殊折丁自体も機械的に折り畳んで組み上げることが容易となり、大量生産という意味でさらに好ましい。

【0020】

本発明の特殊折丁を用いてアジロ綴じ製本により冊子を構成した場合には、脇糊領域に入り込む背糊の侵入量を抑えることで、表紙開閉動作に伴う下絵フラップのストローク量を適正化することができる。すなわち、意図したスライド量が十分に得られず動画が不十分になる、という不都合を確実に防止することができる。

20

【発明を実施するための最良の形態】

【0021】

本発明の実施形態を添付の図面を参照して以下に詳細に説明する。図1は、本発明の一実施形態に係る冊子の構造を説明する分解斜視図である。

【0022】

冊子全体の概略構造：図5

本発明の冊子は、製本後に本文（冊子内の各ページ）を構成する複数の折丁10を重ねて、その最上部に特殊折丁20を置き、これらを背糊および脇糊を用いて表紙30に固定し、最後に、背面部を除く三方を裁断して製本が完了する。

30

詳しくは後述するが、動画を生じさせる要素が特殊折丁20として提供されるため、一般的な大量生産ラインにのせて、動画を生じさせる冊子を製造することが可能となる。この効果は、「無線綴じ」または「アジロ綴じ」のいずれの手法で製本するかとは無関係に得られる。

【0023】

なお、「特殊折丁」とは、本文を構成する通常の折丁10に対して、「別の特殊な機能」を有する折丁という意味である。「特殊折丁」も勿論、製本後において、本文の一部を構成する。本発明における「別の特殊な機能」とは、動画を生じさせる機能である。

【0024】

特殊折丁の構造：図6

40

図6を参照して、特殊折丁20の構造を説明する。特殊折丁20は、折罫a、b、cを介して一列に連設された第1区画21、第2区画22、第3区画23、第4区画24からなる1枚のブランクで構成される（図6a）。

【0025】

第2区画22はベース区画を構成し、このベース区画22は、積み重ねられた他の折丁10の最上部に置かれる（図5）。

【0026】

ベース区画22に対して、図6a中左側に連設された第1区画21は、フィルムゲージ保持区画を構成する。

すなわち、フィルムゲージ保持区画21には、矩形の開口21aが形成されていて、こ

50

の開口 2 1 a を塞ぐようにして、フィルムゲージ 4 5 が貼り付けられる。

【 0 0 2 7 】

ベース区画 2 2 に対して、図 6 a 中右側に連設された第 3 区画 2 3 は、表紙 3 0 の内面に固定されるストローク付与区画を構成する。

すなわち、製本工程において、ストローク付与区画 2 3 は脇糊によって表紙 3 0 の内面に固定され、当該区画 2 3 の幅寸法に応じたスライドストローク量を下絵フラップ 2 4 に与える。詳しくは後述する。

【 0 0 2 8 】

ストローク付与区画 2 3 に対して、図 6 a 中右側に連設された第 4 区画 2 4 は下絵フラップ 2 4 を構成する。この下絵フラップ 2 4 上に複合画像 2 6 が表示される。複合画像 2 6 は、下絵フラップ 2 4 上に直接印刷されていても、別のシート片に印刷したものを貼り付けてもよい。

【 0 0 2 9 】

特殊折丁 2 0 を組み立てるには、まず、下絵フラップ 2 4 をベース区画 2 2 上に折り返す。次に、下絵フラップ 2 4 をスライド可能に挟み込むように、上方からフィルムゲージ保持区画 2 1 を折り返して、ベース区画 2 2 上に貼付・固定する。このとき、フィルムゲージ保持区画 2 1 は、ベース区画 2 2 の側方領域 2 2 a に貼り付けられ、したがって、台形形状の下絵フラップ 2 4 は、貼付後においても、ベース区画 2 2 とフィルムゲージ保持区画 2 1 とに挟まれた状態を保ってスライド移動が可能となる。

なお、折罫 a のやや内側領域においても、フィルムゲージ保持区画 2 1 とベース区画 2 2 を接着固定しておくことが好ましく、これにより製本時に折罫 a に沿う側辺領域を裁断した後でも、ベース区画 2 2 とフィルムゲージ保持区画 2 1 の自由端を接着固定した状態を保つことができる。

【 0 0 3 0 】

なお、下に説明する通り、下絵フラップ 2 4 の適正なストローク量を確保するという観点からは、「アジロ綴じ」によって冊子を製本することが好ましい。その場合には、図 6 (a) に概略的に示したように、ベース区画 2 2 とストローク付与区画 2 3 の境界に位置する折罫 b に、アジロ綴じ用のミシン目 5 0 を形成する。

【 0 0 3 1 】

ストローク量を適正にするためにアジロ綴じが好ましい理由

まず、「無線綴じ」および「アジロ綴じ」について簡単に説明する。これらは、いずれも一般的に知られた製本手法である。

(1) 無線綴じ

複数の折丁を重ね合わせて背面を合わせ、背糊および脇糊を用いて表紙に固定する。重ね合わせた折丁の背面に切込み 6 0 を形成して、背糊の付きを良くする (図 7 b)

(2) アジロ綴じ

これは無線綴じの改良で、重ね合わせた折丁の背面において、無線綴じの場合の上記切込み 6 0 に代えてミシン目 5 0 を設けている。(図 7 a) ミシン目 5 0 を通して、折丁の中にまで糊が侵入するので、接着力が高くなるというメリットがある。

【 0 0 3 2 】

図 7 に一部拡大して示したように、折丁背面からの切除部の深さを比較すると、「アジロ綴じにおけるミシン目 5 0 」の深さ D 1 は小さいが、「無線綴じにおける切込み 6 0 」の深さ D 2 は、D 1 よりもかなり大きい。

このように、深さ D 1 が小さいことがアジロ綴じが好ましい理由である。図 8 を参照して詳しく説明する。

【 0 0 3 3 】

図 8 は、冊子断面を示す模式図である。背面を合わせて重ね合わされた折丁 1 0 および特殊折丁 2 0 は、背糊と脇糊を用いて表紙 3 0 に固定される。

特殊折丁 2 0 のストローク付与区画 2 3 に脇糊が塗布される。つまり、ストローク付与区画 2 3 は、表紙内面に接着・固定されるので、製本後における表紙 3 0 の開閉操作の際

10

20

30

40

50

に、表紙 30 と一緒に移動する。そして、これに連動して下絵フラップ 24 が、フィルムゲージ保持区画 21 に保持されたフィルムゲージ 45 に対して相対的にスライドする。

このように、ストローク付与区画 23 の幅寸法 “L” によって、下絵フラップ 24 がスライド移動する場合のストローク量が決定される。“L” の具体的な寸法は、動画の種類に応じて個別に設定されるが、いずれにしても予め設定した “L” の値が正確に実現されることが重要となる。

【0034】

一方、図 8 において、“D” は背面からの背糊の侵入量を示している。既に説明したように、積み重ねた折丁の背面に、「アジロ綴じ」ではミシン目 50 を、「無線綴じ」では切込み 60 を、形成している。そのため、その部分から背糊が侵入して脇糊領域に入り込んでくる。

10

この侵入量 “D” に相当する領域では、表紙 30 が冊子内の各折丁と一体化するので、表紙 30 を開閉する動作を行っても、当該領域における表紙部分は、各折丁と一体化するため動かない。つまり、“D” に相当する距離だけストロークに寄与する脇糊領域が殺され、その結果、ストロークに寄与できる実質的な脇糊幅は「L - D」となってしまう。

すなわち、動画の設計段階で “L” のストローク量を予定していたにも拘わらず、実際のストローク量は「L - D」となってしまい、その結果、得られる動画のダイナミックさが不十分なものとなってしまう。

【0035】

これを避けるためには、“D” の値はできるだけ小さい方が好ましい。ここで図 7 に戻ると、この “D” は、アジロ綴じにおいては “D1”、無線綴じにおいては “D2” となるので、アジロ綴じの方が好ましいことが分かる。

20

【0036】

下絵フラップ 24 の台形形状について

図示した実施形態では、動画を生じさせる特殊折丁 20 を含んだ冊子を大量生産にさらに適したものとするために、下絵フラップ 24 の形状を富士山のような台形形状としている。

すなわち、図 6 に示したように、下絵フラップ 24 は、ストローク付与区画 23 に連設される根元部 24a においては、ストローク付与区画 23 の全高に渡って延在する（製本後の冊子の天地方向全体に渡って延在する）。一方、根元部 24a とは反対側の自由端部 24b は、下絵フラップ 24 のスライド移動を可能とするために、根元部 24a よりも短い寸法を有する。

30

そして、根元部 24a と自由端部 24b の両端同士をそれぞれ直線 24c で結び、全体として台形形状を為している。

【0037】

これには、次のような理由がある。製本機械を用いて特殊折丁 20 を折り畳む際には、まず機械のアームが自由端部 24b を掴んで下絵フラップ 24 を折り返す。このとき、下絵フラップ 24 は湾曲アーチ状に折り返された状態にあるが、その後、折罫 b、c に沿って機械的に鋭角の折り目が付けられる。つまり、機械アームが掴むのは幅狭の自由端部 24b だけであるが、このアームによる摘み力を幅広の根元部 24a 全体に良好に伝えるには、自由端部 24b の両端を根元部 24a の両端まで直線 24c で連結し、全体として台形形状とすることが好ましい。

40

直線 24c が内側に入り込むと、アームによる摘み力が根元部 24a の両端領域に良好に伝わらず、良好に折り返すことができない。一方、直線 24c が外側に膨出すると、特殊折丁 20 の組立後において、下絵フラップ 24 のスムーズなスライド移動を阻害してしまう。

下絵フラップ 24 を直線で囲まれた台形形状とすることで、いずれの不都合もなく、機械による大量生産を実現することが可能となる。

【0038】

生じる動画との関係

50

図 9 は、製本後の冊子 15 と、生じる動画との関係を示している。表紙 30 を閉じたり開いたりする動作に伴って、下絵フラップ 24 がフィルムゲージ 45 に対して相対的にスライド移動し、これによって、視覚的效果を利用した動画が現れる。図 9 では、3 つの画素から構成される動画の一例を示しているが、具体的な図柄や画素の数は、任意に設定することができる。

生じる動画を、当該冊子の内容あるいは出版社と関連付けたものとすることで、宣伝効果あるいは販売促進効果を高めることができる。この関連性は、当該冊子の内容や出版社に直接関連するものに限られず、広い意味で何らかの関連があればよい。

【0039】

なお、図示した例では表紙 30 に窓 33 を設けているが、この窓 33 は必ずしも必要ではなく、省略することも可能である。しかし、窓 33 が存在すると、冊子の表紙 30 を開いたり、閉じたりする動作に伴って、より広範な角度からフィルムゲージの上に生じる動画を視認することができるというメリットがある。この構成は、特に冊子の陳列状態において、動画装飾要素の存在をアピールして、販売促進効果が期待できるという点で有利である。

【0040】

格子状のフィルムゲージ

本発明においては、ストライプ状のフィルムゲージ 45 に限らず、格子状のフィルムゲージ 45 ' を採用することも可能である（図 6 中の円内）。勿論、その場合には、下絵 26 は、これに対応して動画を生じさせるものが採用される。

ストライプ状のフィルムゲージ 45 の場合、一方向の相対スライドによって動画が生じるが、格子状のフィルムゲージ 45 ' の場合、タテ、ヨコ、ナナメのいずれの方向に相対スライドした場合でも動画が生じる。これは、特殊折丁 20 の組立て精度が高くなく、相対スライド方向が予定の一方向から逸れた場合でも動画に変化が生じるという点で有効である。

【0041】

下絵フラップとフィルムゲージとの密着性を高めるための構成：図 9

さらに本発明においては、特殊折丁 20 にストローク付与区画 23 を設けていることに起因して、下絵フラップ 24 とフィルムゲージ 45 との密着性が高まるというメリットがある。

一般的に、下絵フラップ 24 とフィルムゲージ 45 を重ねて相対スライドさせることで動画を生じさせる場合、両者の隙間が大きいと、動画がボヤケて見えることがある。動画をクリアにするためには、下絵フラップ 24 とフィルムゲージ 45 が適度に圧接することが好ましい。

【0042】

図 9 に部分的に拡大して示したように、ストローク付与区画 23 が存在するが故に、下絵フラップ 24 は、表紙 30 の内面において、折罫 b から一定距離“L”だけ離れた位置から立ち上がることとなる（オフセットされている）。これにより、下絵フラップ 24 をフィルムゲージ 45 に対して圧接させる力が生じる。つまり、下絵フラップ 24 とフィルムゲージ 45 が適度に密着して、クリアな動画を得ることができる。

【図面の簡単な説明】

【0043】

【図 1】 2 つの画素から動画を生じさせる原理を示す説明図。

【図 2】 2 つの画素から動画を生じさせる原理を示す説明図。

【図 3】 3 つの画素から動画を生じさせる原理を示す説明図。

【図 4】 3 つの画素から動画を生じさせる原理を示す説明図。

【図 5】 本発明の一実施形態に係る冊子の構造を説明する斜視図。

【図 6】 図 5 中の特殊折丁を説明する図。

【図 7】 アジロ綴じと無線綴じを簡単に説明する図。

【図 8】 本発明においてアジロ綴じが好ましい理由を説明する図。

10

20

30

40

50

【図 9】図 5 の冊子と生じる動画との関係を説明する図。

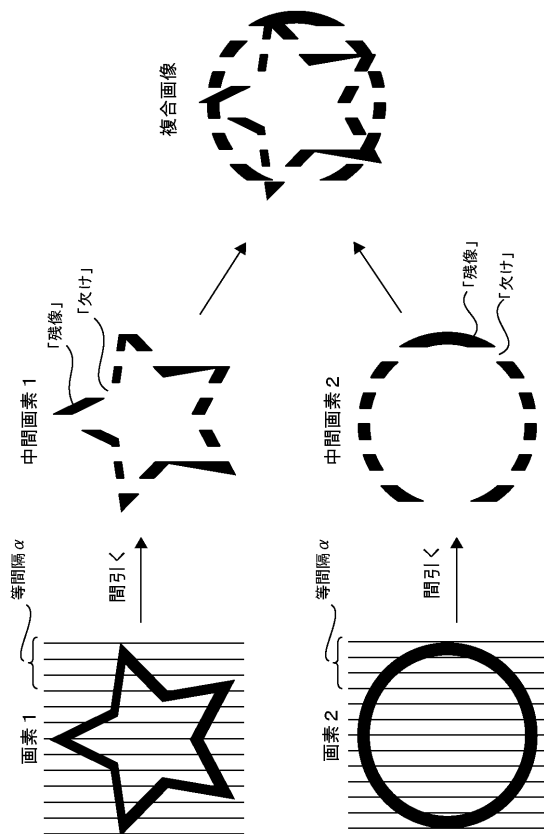
【符号の説明】

【 0 0 4 4 】

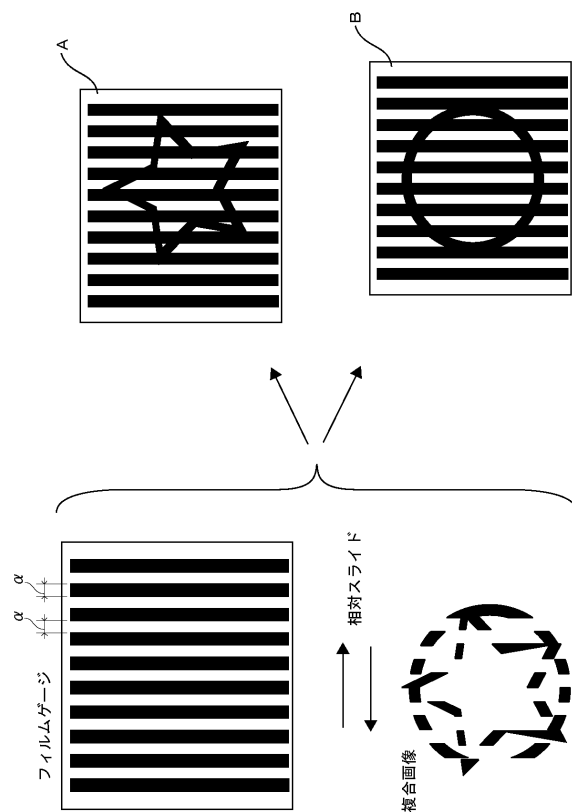
- 1 0 折丁
- 1 5 冊子
- 2 0 特殊折丁
- 2 1 フィルムゲージ保持区画（第 1 区画）
- 2 1 a 開口
- 2 2 ベース区画（第 2 区画）
- 2 3 ストローク付与区画（第 3 区画）
- 2 4 下絵フラップ（第 4 区画）
- 2 6 複合画像
- 3 0 表紙
- 3 3 開口（窓）
- 4 5 フィルムゲージ
- 5 0 ミシン目
- 6 0 切込み

10

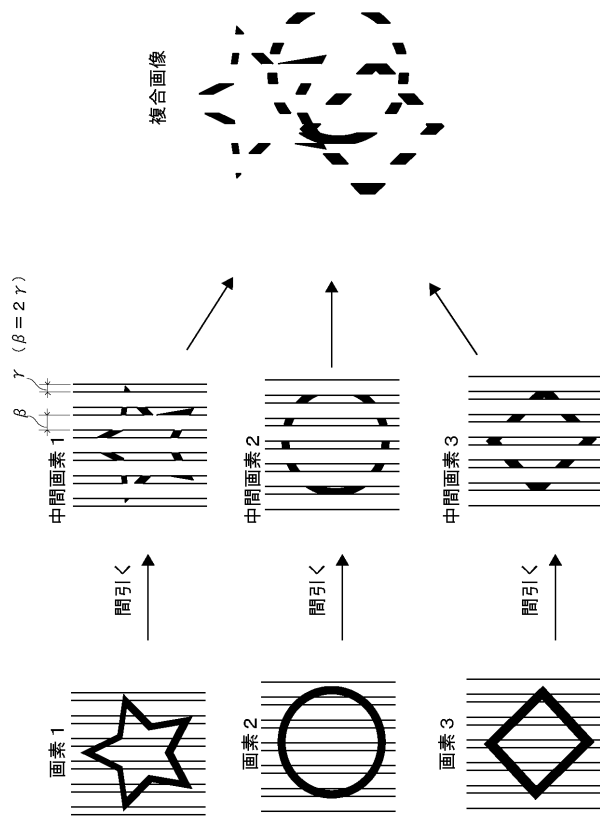
【図 1】



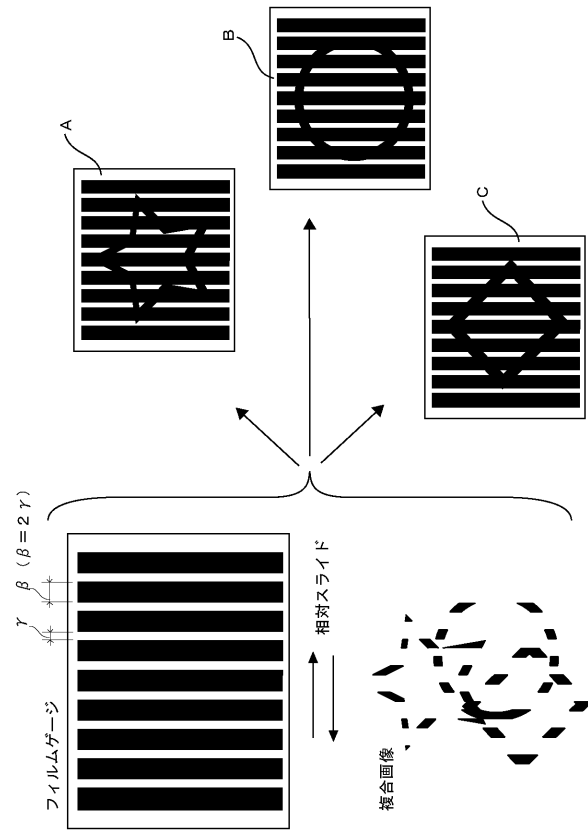
【図 2】



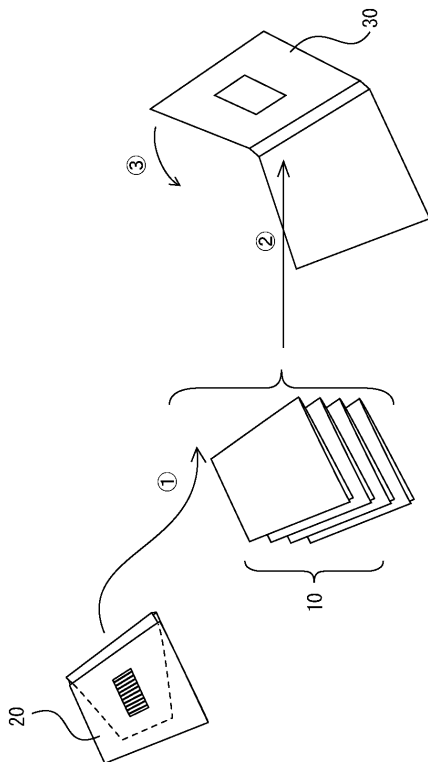
【図 3】



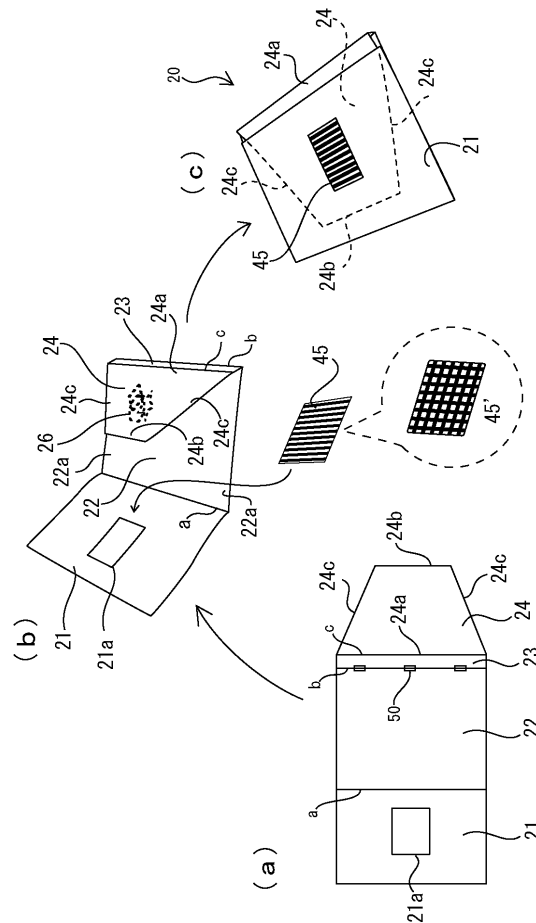
【図 4】



【図 5】

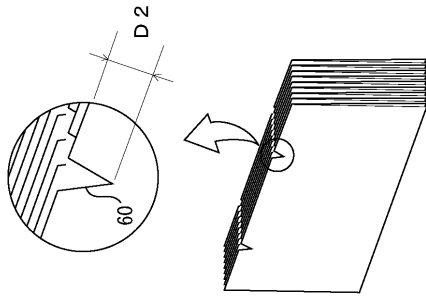


【図 6】

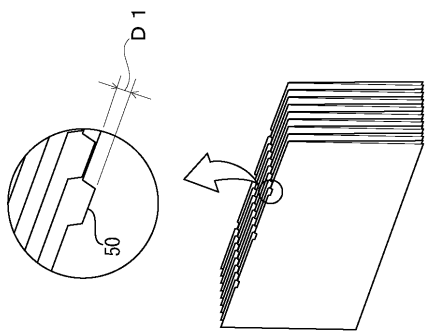


【図 7】

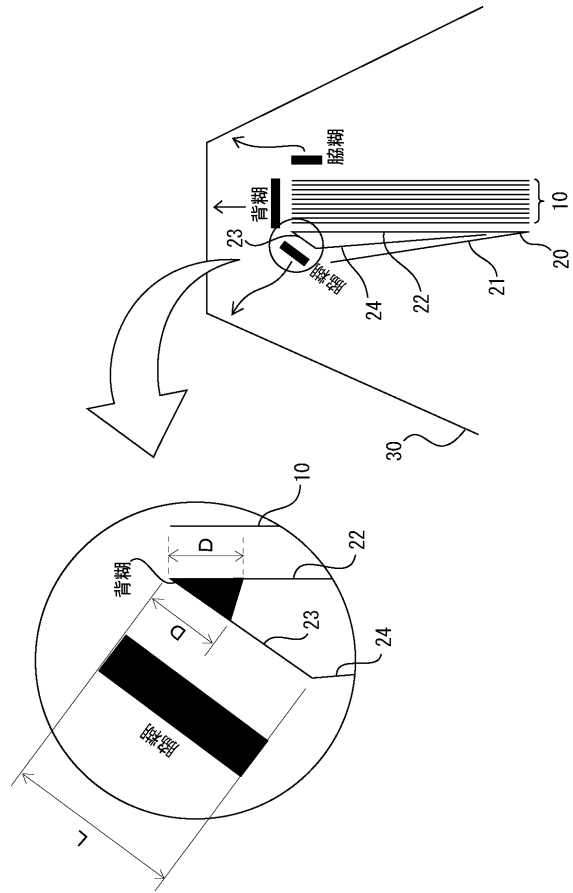
(b) 無線綴じ



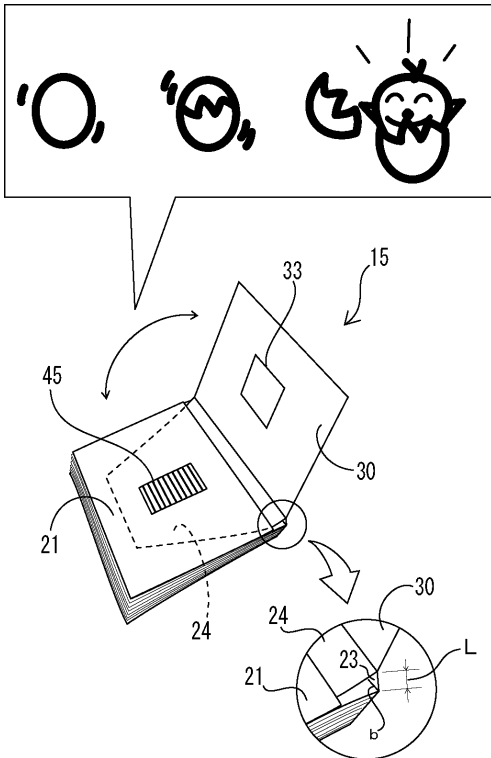
(a) アジロ綴じ



【図 8】



【図 9】



フロントページの続き

(72)発明者 大森 威志

大阪府大阪市西区南堀江 1 丁目 1 7 番 2 8 号 株式会社 D N P メディアクリエイト関西内

(72)発明者 村上 優

大阪府大阪市西区南堀江 1 丁目 1 7 番 2 8 号 株式会社 D N P メディアクリエイト関西内

(72)発明者 永恵 文敏

大阪府大阪市西区南堀江 1 丁目 1 7 番 2 8 号 株式会社 D N P メディアクリエイト関西内